



令和元年も光陰矢の如く過ぎ去り、令和 2 年を迎えております。世界中で COVID-19 によるパンデミックのため、かなりの制限を強いられた環境下での生活が営まれています。

札幌医科大学呼吸器外科教室では、低侵襲手術を主なテーマに特に鏡視下呼吸器外科手術を積極的に行なってまいりました。早期肺癌に関しては、呼吸機能への低侵襲を目的に区域切除を含めた縮小手術を積極的に行なってきました。さらに、平成 30 年からロボット支援手術を開始し、現在累積 100 例を超える東北北海道圏では最多症例数となっております。これまでの胸腔鏡手術の経験を活かし、ロボット支援手術の利点と特異性を十分理解することにより安全で高質なロボット手術を施行可能となっております。現在までに大きなトラブルはなくかつ開胸移行症例はないことは特記すべきことと考えています。

教育面では、卒前教育にはクラウドの一つである One drive を利用した e-learning を活用しクリニカルクラークシップにおける理解しやすく、より実践的な教育を行っております。手術動画はもとより、抄読会の文献登録、手術予定、講義ないしはセミナースライド原稿の閲覧が可能となっております。卒前教育だけではなく、卒後専攻医に関する教育にも寄与するものと考えています。卒後教育では、「世界に羽ばたくアカデミックサーजन」を合言葉に疾患の病因、症候、診断、治療、管理法を学ぶとともに、手術手技では、レベルを評価しながらの実臨牀における多くの実体験をすることを目指しています。他施設よりも、研修医、専攻委が多く手術を経験していることは当教室の自負すべき点であると思っております。また、実体験に基づいたテーマでの全国大会レベルの学会発表も積極的に行っております。

研究面では、呼吸器アレルギー内科講座、附属フロンティア医学研究所 分子医学部門、細胞科学部門、生化学講座などと共同し KRAS 遺伝子変異陽性肺腺癌の臨床病理学的解析、3D-CT 画像による肺動静脈、気管支解剖、走行に関する研究、Energy device 使用時の組織形態学的変化の研究、正常末梢肺上皮と気管支基底細胞の細胞生物学的・病理学的解析、北海道大学などとの多施設共同前向き臨床試験である P-LAND 非小細胞肺癌手術適応症例に対する周期 ONO-1101 投与の多施設共同ランダム化比較試験など積極的に取り組んできました。大学院生も 2 名は令和癌年度に卒業し、現在 4 名の大学院生が「臨床医学研究コース」、「がん研究コース」で研究に勤しんでいます。基礎研究、および臨牀研究に基づい

た論文発表も多くなされております。

まだまだ発展途上の教室ではありますが、さらに、病める人を癒すため、自己の向上、お互いの絆を築き、呼吸器外科分野の発展を目指して新たな仲間が加わってくれることを願ってやみません。また、関係各位の多大なご支援に感謝しつつ、「昨年よりは今年、先月よりは今月、昨日よりは今日」を念頭にパンデミックに負けないように良き教室を目指し精進していきたいと考えています。